

#### IV 生涯学習社会をつくる

##### 1 生涯学習・社会教育の総合的推進

### (1) 社会教育活動の推進 <<施策23>>

社会教育課

#### 令和2年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 高度化、多様化する県民の学習ニーズに応えるため、よりよい学習環境を提供します。
- ◇ 県民の学習ニーズや社会的課題に対応した学習機会を提供するとともに、学習成果を活用する機会の充実を図ります。
- ◇ 県民の学習に対する意欲を高め、主体的な学習活動を促進するため、関係機関、団体（PTA・子ども会など）との連携・協力体制を強化します。

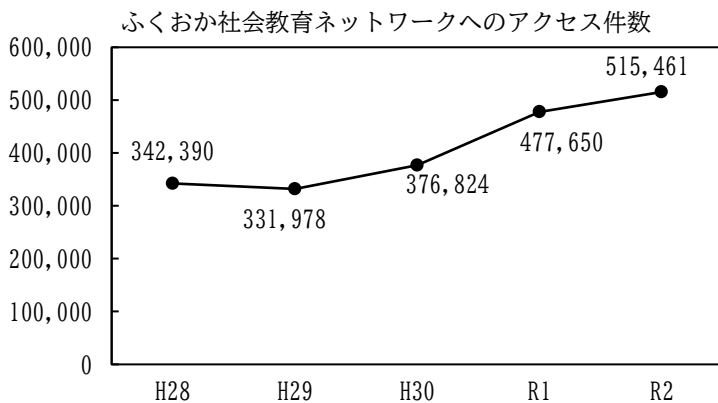
#### 令和2年度 主な取組・事業

取組・事業名	実績
NPOやボランティア団体との連携・協力の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ みんなで育もう！ふくおかの子ども育成支援フォーラム 参加者 100 人</li> <li>○ 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会の開催（2日間） 中止</li> </ul>
社会教育関係団体等に対する育成支援・補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公共性のある適切な活動を行う社会教育団体への助成 10 団体</li> </ul>
社会教育関係職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市町村社会教育関係職員研修（WEB開催） 参加者 667 人</li> <li>○ 社会教育専門研修 中止</li> <li>○ 県社会教育主事等研修会 参加者延べ 96 人</li> </ul>
ふくおか社会教育応援隊事業の実施 <重点事業7>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ふくおか社会教育応援隊派遣回数 584 回</li> </ul>
県立社会教育総合センター等での学習情報の提供及び学習相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ふくおか社会教育ネットワーク アクセス件数 515,461 件</li> <li>○ メールマガジンの配信 年 12 回（登録者数約 556 人）</li> <li>○ 体験活動に関する動画等コンテンツの配信 計 25 種類</li> </ul>
現代的な課題に関する学習機会の提供とボランティア活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現代的課題対応研修 「学校とともにある地域づくり・人づくり推進セミナー」（WEB開催） 参加者 978 人（特設ページアクセス件数）</li> <li>○ 環境ボランティア養成研修 in 英彦山（2回） 参加者延べ 55 人</li> </ul>

※ 中止は新型コロナウイルス感染拡大防止によるもの

#### 指 標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値	達 成 状 況
社会教育に関する学習情報提供の充実	「ふくおか社会教育ネットワーク」へのアクセス件数	515,461 件 (R2年度)	300,000 件 (毎年度)	◎



**成 果** 社会教育関係職員・団体等を対象とした研修会や動画コンテンツの配信をとおして、学習のニーズや社会的課題に応じた学びの場を提供することができました。

- ・ 「みんなで育もう！ふくおかの子ども育成支援フォーラム」では、家庭教育や子育て支援に関わる個人や団体、行政担当者が集い、家庭教育支援や子育て支援の在り方を考えるとともに、地域で子どもを育てる様々な活動支援等を学ぶことができました。
- ・ 社会教育関係団体へは、助成を行うだけでなく積極的な情報提供等を行うことで、各団体の特色ある活動を生かした地域における社会教育振興につながりました。
- ・ ふくおか社会教育応援隊事業では、市町村や学校等からの要望に応じて社会教育主事等を派遣し、家庭教育支援や青少年教育等、社会教育に関する情報提供や学習方法の提供を行いました。また、コロナ禍においても、活動プログラムを工夫しながら派遣し続けることができました。
- ・ 県民の学習ニーズや社会的課題に対応するための基礎研修や専門的研修を実施することで、参加者の資質・能力の向上を図るとともに、関係者同士のネットワークづくりにもつなげることができました。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対面での体験活動等の機会が減る中、体験活動や自宅でできる体験遊びに関する動画コンテンツの配信を行い、児童生徒の事前学習等での活用を促進するほか、体験遊びのきっかけづくりとなる情報を提供することができました。

**課 題** 地域の人材育成や課題解決につながる研修の充実が求められています。

- ① 家庭教育や子育て支援、子どもの貧困問題、環境問題等、現代的な課題の解決につながる研修が求められています。
- ② 家庭教育支援や青少年教育等、社会教育に関する情報提供や学習方法の提供など、市町村や学校等からの要望に応じた内容の充実を図る必要があります。
- ③ 社会教育関係団体等と密に情報交換を行いながら、更なる連携・協働を図る必要があります。
- ④ SNSのみの利用者が増加していることや情報収集のためのメディアコンテンツの多様化に伴い、より県民のニーズに応えられるよう情報の発信方法を検討する必要があります。

**対 応** 学習情報の提供、学習の場を充実させます。

- ① 生涯学習・社会教育関係者やNPO団体、更には大学関係者や企業等、様々な立場の人々の学習のニーズを幅広く把握することや、そのニーズに応じた課題の解決につながる学習と交流の場を設定するなど、市町村職員、ボランティア等、社会教育関係者が地域の課題解決や社会教育振興に資する研修の充実を図ります。
- ② 提供する情報等の内容充実を図るとともに、団体等の育成支援、活動等の活発化支援及び運営補助等を実施していきます。
- ③ 社会教育関係団体が求める学習情報の提供を適切に行い、より多く情報交換を行えるようにします。
- ④ より多くの県民のニーズに応えられるよう情報収集し、必要な情報を幅広く発信するために、動画コンテンツ等を充実させ、ホームページ等から発信していきます。

IV 生涯学習社会をつくる  
2 生涯学習・社会教育環境の整備

(1) 社会教育施設の充実 <<施策24>>

社会教育課

令和2年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 社会教育を振興する県立社会教育施設の機能充実と利用促進を図るとともに、県民のニーズに対応できるように社会教育関係職員の専門性を高めます。

令和2年度 主な取組・事業

取組・事業名	実績
県立社会教育施設の機能充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県立社会教育施設における事業内容改善、体験プログラムの開発</li> <li>○ 電子書籍の閲覧回数（10月から）4,680回</li> <li>○ 県立図書館 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遠隔地サービス利用数 12,273冊</li> <li>・ 学校貸出図書セット 440冊（11セット×40冊）</li> <li>・ レファレンス受付数 49,191件</li> </ul> </li> <li>○ 県立図書館および公立図書館等の相互ネットワーク構築 貸出借受冊数 17,938冊</li> </ul>
県立社会教育施設の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県民の利用促進を行うため、企業や大学等への周知、広報活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会教育総合センター、英彦山青年の家、少年自然の家「玄海の家」 開所日数 863日</li> </ul> </li> <li>○ 県立社会教育施設（社会教育総合センター、英彦山青年の家、少年自然の家「玄海の家」、3施設） 研修者数 29,511人</li> <li>○ 県立図書館 図書館貸出冊数 370,070冊</li> <li>○ 青少年科学館 入館者数 91,842人</li> </ul>
社会教育施設職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プレイリーダー<sup>注1</sup>研修（福岡県子ども会育成連合会と共催） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレイリーダー1級（少年自然の家「玄海の家」において開催） スキルアップ講座（オンライン研修）に変更して実施 受講者数 16人</li> <li>・ プレイリーダー2級（南筑後教育事務所において開催） 受講者数 24人</li> </ul> </li> <li>○ 専門研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料デジタル化研修 参加者数 27人</li> <li>・ レファレンス研修（中級） 参加者数 29人</li> <li>・ 「子どもと読書」研修会 参加者数 45人 （入門講座 20人、専門講座 25人）</li> </ul> </li> </ul>

指 標

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
県立社会教育施設の利用	県立社会教育施設の利用者数（社会教育総合センター、英彦山青年の家、少年自然の家「玄海の家」） ※1	29,511人 (R2年度)	223,000人 (毎年度)	—
県立図書館の利用	県立図書館の図書貸出冊数 ※2	370,070冊 (R2年度)	460,000冊 (毎年度)	—
	県立図書館の図書貸出利用者数 ※2	139,753人 (R2年度)	171,000人 (毎年度)	—
青少年科学館の利用	青少年科学館の入館者数 ※2	91,842人 (R2年度)	318,700人 (毎年度)	—

※1 新型コロナウイルス感染症拡大防止措置のため休館

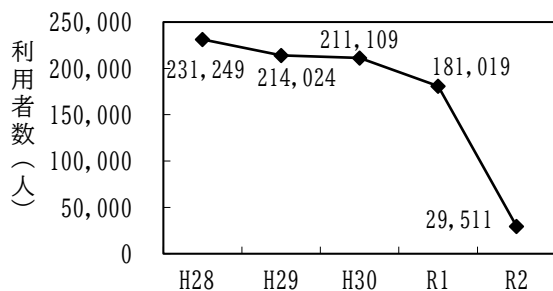
令和2年3月から5月まで

※2

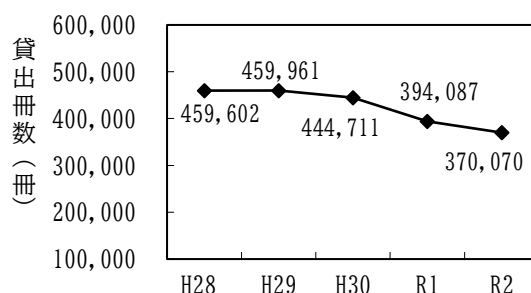
〃

令和2年2月から5月まで

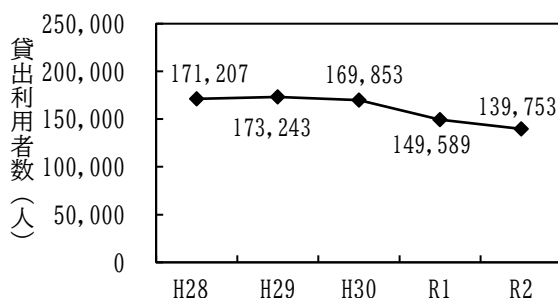
社会教育総合センター、英彦山青年の家  
少年自然の家「玄海の家」の利用者数



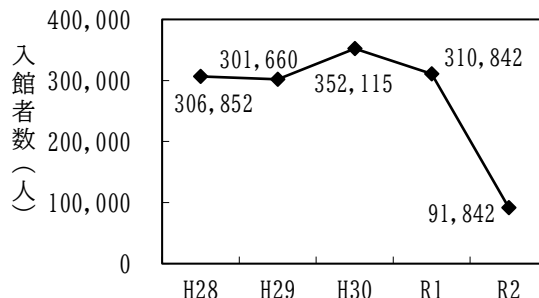
県立図書館の図書貸出冊数



県立図書館の図書貸出利用者数



青少年科学館の入館者数



## 成果

県立社会教育施設では、県民のニーズに応える事業内容の改善やプログラムの開発に取り組みました。

- ・ 県立社会教育施設では、県民のニーズに応える事業内容の改善を進めたほか、施設の特徴を活かした新たなプログラムを各施設において開発し、取り組むことができました。
- ・ 県立図書館では、資料デジタル化やレファレンス等について、図書館職員対象の研修の充実を図るとともに、学校貸出図書セットの貸出や指定館受取・返却サービスの充実、電子書籍の導入等を実施し、利用者サービスの向上に努めました。
- ・ コロナ禍においても研修の分割実施やオンライン開催など開催方法を工夫し、継続して学びの場を提供することができました。

## 課題

施設の特徴を生かし、県民のニーズに更に応えるための工夫が必要です。

- ① 社会教育総合センター、英彦山青年の家、少年自然の家「玄海の家」においては、今後も子どもの体験活動の一層の充実や指導者養成など、県民のニーズに更に応えるため、魅力ある事業の開発と人材育成が必要です。また、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた実施形態で事業を実施する必要があります。
- ② 県立図書館においては、新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休館の影響を受け、貸出利用者数は減少しました。今後の利用者増を図るためにも、更なる図書館サービスの充実を図ることが必要です。
- ③ 青少年科学館においては、民間の専門機関との連携・協力を視点に、利用者のニーズに応じた、より効果的な事業運営に努める必要があります。

## 対応

施設利用者を増やせるようサービスと機能の充実を行います。

- ① 社会教育総合センター、英彦山青年の家、少年自然の家「玄海の家」においては、今日的課題に対応した研修を一層充実させ、立地条件を生かした体験活動プログラムの開発及び人材育成を継続的にを行います。また、新型コロナウイルス感染対策を踏まえて、事業日程及び回数、宿泊を伴わないプログラム等を検討し、実施していきます。
- ② 県立図書館については、市町村立図書館等との連携強化を一層図るとともに、県立図書館の特徴や魅力を発信し、電子書籍の冊数増など、サービスの向上に努めます。
- ③ 青少年科学館については利用者のニーズを的確に捉え、企画や特別展、プラネタリウム番組等の充実を行います。

## 注釈

注1) プレイリーダー：県において定められた内容の研修を受講し、修了証を取得した者であり、安全に配慮しながら様々な体験活動、子どもの成長に合わせたものづくりや屋外での遊び等を指導する者。